

V くまもと水ブランドの推進

本市は 74 万市民の水道水源を 100%天然地下水で賄い、水に関係する様々な伝統文化や歴史、食、風習など「水の風土と文化」が息づく都市です。本市にとっての水は、存立基盤として保全すべき資源であるとともに、魅力づくりに生かすべき資源でもあります。

そこで、平成 16 年度（2004 年度）の「くまもと水ブランド創造戦略調査」、平成 17 年度（2005 年度）の「くまもと水ブランド創造プロジェクト会議」での検討を経て、平成 18 年（2006 年度）11 月に「くまもと水ブランド創造プラン・くまもとウォーターライフの創造と発信」を策定しました。

また、平成 26 年度（2014 年度）に策定した「第 2 次熊本市地下水保全プラン」を、令和 2 年（2020 年）3 月には「第 3 次熊本市地下水保全プラン」へ改定し、その方針と対策を位置づけ、水を本市の魅力づくりのための戦略資源として、「熊本といえば水」「水といえば熊本」と評価されるような更なる都市ブランドの創出に取り組んでいます。

1 基本戦略「くまもとウォーターライフ」とその目指す姿

くまもとウォーターライフは、100%天然地下水の暮らしをはじめ本市に息づく多様な水文化を、「ライフスタイル」という視点で総合的に演出し、環境の世紀にふさわしい本市ならではの水の生活文化を創造・発信することとしています。

「水に憩い遊ぶライフスタイル」「水で食と健康と活力を育むライフスタイル」「水に感謝し守るライフスタイル」の 3 つの目指すライフスタイル像を設定し、これらの実現と効果的な発信によって、「水」の都市ブランドを確立していきます。

【基本戦略のコンセプト】

水といのちが循環する美しい都市生活
くまもとウォーターライフ

わたしたち熊本市民は、
21 世紀という環境の世紀の担い手として
“天然地下水～ミネラルウォーター100%”という
自然の恵みに感謝し、
水に憩い・遊び、水で健康を育む
快適な日常生活を営むとともに、
この豊かな生活を支える水循環機能の
再生・保全活動に取り組み

水といのちが循環する美しい都市生活
「くまもとウォーターライフ」を確立し、
これを広く内外に発信するとともに、
次世代、そして次世紀へ継承します。

【シンボルマーク】



KUMAMOTO WATER LIFE

制作意図

水のゆらめきをモチーフに、水の恵みによる豊かでゆったりとしたライフスタイルを表現。3 層の水の流れは、下層から「地下水」、「川・海」、「雨」を表し、水の循環をシンボリックに示したデザインである。

2 具体的な取組

平成 18 年度（2006 年度）から始まった水ブランドの取組として、様々な P R 事業を実施してきました（巻末参考資料「水ブランド推進の年表」参照）。

(1) 熊本水遺産登録制度

本市の水にかかわる自然、歴史、風習、人物、芸術など有形又は・無形の資源を登録し、顕彰・保全する制度です。平成 17 年度(2006 年度) 創設し、現在 92 件を登録しています。

(2) くまもと「水」検定制

全国初の水のご当地検定として平成 20 年度（2008 年度）から開始し、難易度別に 1 級～3 級を設け、合格者には合格認定証を交付しています。

令和 4 年度（2022 年度）は、第 14 回くまもと「水」検定として 1 級～3 級までのすべての試験を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和 2 年度（2020 年度）はすべての級の試験を中止し、令和 3 年度（2021 年度）は 3 級試験のみの実施であったため、全級での試験実施は 3 年ぶりとなりました。

【令和 4 年度（2022 年度）実施状況】

3 級試験	通信制（郵送・インターネット）で、7 月 1 日から 10 月 31 日までの期間実施。入門レベルの 3 択 30 問。 受験者数 2,720 人、合格者数 2,248 人、県外受験者 73 人。
2 級試験	3 級より深い知識が求められるレベルの 5 択 50 問。受験者数 30 人、合格者数 13 人、県外受験なし。
1 級試験	12 月 3 日に熊本学園大学で実施。 1 級試験は、専門的な知識が求められるレベルで選択式、記述式、論述式の構成。受験者数 23 人、合格者数 1 人、県外受験者 1 人。

【くまもと「水」検定の受験者数】

実施年度	3 級		2 級		1 級	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
平成 20 年度	7,930	7,293	644	446	未実施	
平成 21 年度	6,472	4,784	187	97	167	44
平成 22 年度	6,563	5,378	187	99	144	12
平成 23 年度	3,581	3,161	165	100	114	32
平成 24 年度	5,087	4,237	135	89	91	9
平成 25 年度	4,454	4,002	128	79	98	46
平成 26 年度	3,073	2,338	108	57	68	7
平成 27 年度	3,695	3,340	85	24	58	2
平成 28 年度	3,401	2,823	120	43	57	3
平成 29 年度	3,713	3,191	96	61	47	6

平成 30 年度	2,815	2,567	113	73	68	9
令和元年度	2,085	1,774	75	44	54	21
令和 2 年度	中止					
令和 3 年度	3,444	3,157	中止			
令和 4 年度	2,720	2,248	30	13	23	1
合計	59,033	50,293	2,073	1,225	989	192

(3) くまもと水守制度

本市の水保全や魅力発信の活動を行う人を“くまもと水守”の愛称で登録し、人材情報や活動情報を集約・発信するとともにネットワーク形成を図る制度です。平成 20 年度（2008 年度）に創設し、令和 4 年度（2022 年度）末で登録者は 189 名です。

(4) 街なか親水施設

平成 23 年（2011 年）春の九州新幹線全線開業を機に、「地下水都市・熊本」を印象づける空間として、天然地下水（水道水）が味わえる「街なか親水施設」を熊本駅新幹線口から熊本城を中心とする中心市街地に整備しました。親水施設を巡りながら街めぐりができるような拠点に整備し、全ての水飲み場で熊本のおいしい水を味わうことができます。



阿蘇恵みの水

（熊本駅新幹線口（西口）駅前広場）



祇園さんの水

（祇園橋際ポケットパーク）



城下町の水

（明八橋そば）



せんばの水

（洗馬橋電停前）



城見の水

（熊本市役所前）

(5) 株式会社 良品計画との連携事業

株式会社 良品計画と「水を通じた持続可能な社会の実現のための連携協定」を締

結し、市民参加型のワークショップなどを実施しています。

令和4年度（2022年度）の実績は以下のとおりです。

- ・ MUJI ウォーキング 4 回
- ・ ワークショップ
端切れを使った小物づくり 4 回、い草の端材を使ったアクセサリーづくり 8 回、
野菜や葉っぱを使ったオリジナルマイバッグづくり 1 回
- ・ 田植え・稲刈りツアー1 回
- ・ 地下水を育む食材を使用した料理教室 4 回
- ・ つながる市 1 回

(6) 広報PR

各種イベントにおいて、パンフレットをはじめとする広報資料の配布ならびに、SNSによる情報発信を行いました。

(7) 水の国高校生フォーラム

熊本県内の高校生を対象とした、地下水保全ならびに水ブランド情報発信の担い手育成として、熊本県、（公財）くまもと地下水財団、（株）テレビ熊本との共催により、平成27年（2015年）～令和3年（2021年）まで実施していました。

VI 第4回アジア・太平洋水サミット

令和4年（2022年）4月23日、24日に「第4回アジア・太平洋水サミット」が本市で開催されました。「アジア・太平洋水サミット」は、アジア太平洋地域における、急速な人口増加、経済発展、気候変動による水不足や水質汚濁、洪水被害の増大などの水に関する声を取りまとめ、世界の優先課題として提起するとともに、地域の英知を結集し、課題の解決を図るための水の国際会議です。第1回は2007年12月に大分県別府市、第2回は2013年5月にタイのチェンマイ、第3回は2017年12月にミャンマーのヤンゴンで開催されています。

熊本市では、長年培ってきた自然を生かした地下水保全の取組や、熊本地域の住民・事業者・行政による連携・協働の広域的な取組が、水環境に苦しむ地域の課題解決の一助となると考え、第4回目となる水サミットの開催候補地として手を挙げ、今回の開催に至りました。

1 開催概要

名 称：第4回アジア・太平洋水サミット（The 4th Asia Pacific Water Summit）

開催日：令和4年（2022年）4月23日（土）、24日（日）

主 催：アジア・太平洋水フォーラム、熊本市

テーマ：持続可能な発展のための水～実践と継承～

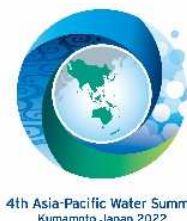
会 場：熊本城ホール（熊本市中央区桜町3番40号）

参加国：日本を含む30か国（オンライン参加およびビデオメッセージ参加含む）

2 公式ロゴマーク

このロゴマークは、アジア太平洋地域全体が、水循環という大きな視点で水を認識し、水問題解決に取り組んでいく姿勢を表現したものです。

外側の輪は、右から反時計回りに、水蒸気となった水が、雨となって地上に降り、川や湖、地下水などに形を変えて大地を潤していくという、大きな循環を意味しています。



3 成果

首脳級会合で採択された「熊本宣言」は、コロナ禍からの復興における水の重要性を踏まえ、水の持続性についての取り組みの強化により、「質の高い社会」への変革が必要であるとして、ガバナンス、ファイナンス、科学技術の3つの分野の重要性が示されました。

この「熊本宣言」の採択は、「国連水会議」へと繋がり、アジア太平洋地域のみならず、世界の水の未来の希望の道筋となることが期待されています。

また、首脳級会合では、岸田首相が、アジア太平洋地域における水を巡る社会課題に対し、官民共同により持続可能な発展と強靱な社会経済の形成につなげていく「新しい資本主義」に基づき、質の高いインフラ整備等に、5年間で約5,000億円の支援を実施する「熊本水イニシアティブ」を発表されました。

4 開催後の取組

サミット開催後には、次世代を担う高校生参加のもと、サミットのアフターイベントを開催しました。

サミットの成果を一過性のものとせず、世界に認められた本市の地下水保全の取組を未来に確実に引き継いでいくため、引き続き、地域、企業、団体と協力しながら、高校生を中心とした若い世代の活動をサポートしていきます。